

鉄道整備安全対策の新定番を目指す 常設型転落防止システム「アクロバット」

第9回 鉄道技術展(2025年11月26日水曜～29日土曜)に出展決定

株式会社G-Place(本社:京都府長岡京市、代表取締役社長:綾部 英寿、以下当社)で建設資材やリサイクル建材の販売事業を行う設備資材事業グループは、常設型転落防止システム「アクロバット」を、2025年11月26日(水)～29日(土)に幕張メッセで行われる第9回 鉄道技術展に出展します。出展ブース番号はW-26、伊岳商事の出展するITAKE STREET内です。

ブースでは、鉄道車両・航空機・大型車両の整備や荷役作業のシーンで多くのお客様にご採用いただいている「水平型ワイヤータイプ」の実機を用いて現場に設置した様子を再現し、使用感や実使用のイメージをご確認いただけます。

【アクロバット公式サイト】<https://akrobat.jp/>



常設型転落防止システム「アクロバット」とは？

「アクロバット」は、点検・整備・荷役作業などで定期的要高所に上がる必要のある業務のために建物等に常設する「ワイヤータイプやレールタイプの親綱」で、危険箇所への接近や墜落・転落を防ぐ「レストRAINTシステム※1」です。

メーカーはシンガポールにあり、製品はEN規格(欧州標準規格)に準拠しています。東南アジアを中心に世界で700件を超える豊富な設置実績があります。日本国内では株式会社G-Placeが2020年に総輸入販売元として販売を開始し、フルハーネス着用義務化を背景に、大手企業・官公庁を中心に設置実績を伸ばしています。

アクロバット製品は建設業、製造業、整備業、メンテナンス業などの現場で使用されています。フルハーネス着用義務化を受けて「フルハーネスの着用を開始したものの、フックの掛け先が無く困っている現場」から多くのご相談を受けており、安全性に加え作業性が非常に高いことから支持されています。

※1レストRAINTシステム(restraint system): 墜落・転落事故を未然に防ぐことを目的とした落ちないための対策のこと



■設置事例

・水平型ワイヤータイプの鉄道整備時の使用事例

<https://youtu.be/M4QV8tkWYdM?si=FQS2q7F-DqIL5fPY>

・水平型ワイヤータイプの設置事例

<https://akrobat.jp/project/horizontal-project>

・垂直型ワイヤータイプの設置事例

<https://akrobat.jp/project/vertical-project>

・懸垂型ワイヤータイプの設置事例

<https://akrobat.jp/project/suspended-project>



鉄道整備事例動画

展示内容 鉄道整備で使用される「水平型ワイヤーシステム」

今回はアクロバットのラインナップの中でも、首都圏の大手鉄道会社などで導入が始まり、導入各社からは設置拠点を拡大する希望を受けるなど、強く支持されている水平型ワイヤータイプの製品を中心に展示します。ブースでは点検歩廊をイメージした実寸大の模型にアクロバットを設置した状態を再現し、点検作業における安全確保のイメージと作業性をご確認いただけます。ご希望があればお客様自身でフルハーネスを着用して使用感を体験できる「体験型ブース」となっている点も特徴で、現物の写真撮影や動画撮影も可能です。実際に見て触って体験していただきながら、高所安全対策の必要性和具体的な解決策をイメージできるブースを目指します。

■展示商品

水平型ワイヤータイプ 点検歩廊設置イメージ

水平型ワイヤータイプ 屋根上設置イメージ

■展示会概要

展示会名：第9回 鉄道技術展

開催日時：2025年11月26日(水)～29日(土)10:00～17:00【最終日は16:00まで】

会場：幕張メッセ 4・5・6・7・8ホール（千葉県千葉市美浜区中瀬2丁目1）

参加費：一般：2,000円(招待券持参者・インターネットからの事前登録者は無料)
学生(高校生以上):無料(インターネットからの事前登録が必要)

公式サイト：<https://www.mtij.jp/>

ブース番号：W-26 ITAKE STREET内



パススルー可能な中間アンカー

アクロバット製品の5つの特徴

■ 1, 作業効率を落とさない「パススルー構造」

高所作業の安全確保においては、作業効率を落とさないことも強く求められます。アクロバットではいずれのラインナップにおいても、フックの掛け替えが不要な「パススルー構造※2」を特徴としており、高所での安全を確保しながら作業負担を減らすことができます。

※2パススルー構造：通常仮設で使用される親綱では、親綱と建物の接合部分を通過する際に、フックが支点アンカーに引っ掛かるため、一旦フックを外して掛け替える二丁掛けが必要となります。アクロバット製品は建物との接合点・支点部分を掛け替え無しで通り抜けできるパススルー構造を特徴としています。

■ 2, 豊富な実績をもとにさまざまな建物・状況に対応可能

製品ラインナップが豊富で様々な高所現場に設置可能です。想定される作業内容や作業人数、建物の形状・材質、賃貸・自社所有などの条件に応じ、高所安全対策のスペシャリストである社内専門技術者が個別に設計を行います。

■ 3, 高い安全性～ヨーロッパEN規格に準拠～

現在、日本においては常設型墜落・転落防止システムに関する規格が定められていませんが、世界を見ると常設型墜落・転落防止システムの必要性が認識され、その安全性を保証するための規格が米国のANSI規格や欧州のEN規格などで作られています。アクロバット製品は欧州標準規格であるEN規格に準拠しています。

■ 4, 建物や環境に調和するデザイン

機能性だけでなく高いデザイン性が認められ、シンガポールのマリーナベイ・サンズ、ドバイ国際空港、アブダビ国立展示場 など、世界のランドマーク建築物でも多数採用されています。

■ 5, 施工後も安心を守る定期点検サービス

設置後は年に1回の定期点検作業(有償)を行い、長期間の安心・安全をお約束します。

■製品概要

製造者：Akrobat Pte. Ltd. (アクロバット・プライベート・リミテッド、シンガポール)

導入実績：東南アジアを中心に世界で700件以上。国内の設置件数も続々増加中。

空港、工場、展示会場、公共施設、商業施設等に設置

資料請求：<https://akrobat.jp/download>

■製品紹介動画

アクロバットがTV番組「ええじゃない課Biz」に出演しました。

「パススルー構造」についても詳しく紹介されていますので是非ご覧ください。

放映内容：<https://youtu.be/bga9W8CCkbo?si=IcrLAHe9OGSfR1RS>



2022年より本格稼働したフルハーネス型墜落制止用器具の着用義務

日本では毎年200人を超える方が高所作業中の墜落や転倒が原因で命を落としており、負傷者を含めるとその数は2万人を超えています※3。これまでは主に胴ベルト型の安全帯が用いられてきましたが、いよいよその安全性が見直されることとなり、労働安全衛生法施行令と労働安全衛生規則の一部改正により、2019年2月1日からフルハーネス型墜落制止用器具の着用が義務化されました。

これにより欧米ではスタンダードであるフルハーネス型墜落制止用器具の着用が、日本でも一定の高さ(6.75m以上の高所/建設業では5m以上で推奨)において義務づけられることとなりました。

さらに2022年1月2日からは旧規格品の販売・着用指示が罰則対象となり、新規格フルハーネスの着用義務化に完全移行した形となっています。

このフルハーネスの着用義務化に伴い、多くのお客様から「フルハーネスは着たが、肝心のランヤードフックを掛ける先がない!」という相談が急増しており、建物設備側の高所安全対策の遅れが表面化しています。

このような状況を受け当社では、「すべての作業者の命を墜落・転落事故から守る」というメーカーの使命を継承し「高所作業時の事故を”ゼロ”に!」をスローガンに安心・安全な労働環境づくりのため尽力しています。



※3参考:厚生労働省, 令和5年 労働災害発生状況(公表 令和6年5月27日)https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_40395.html

株式会社G-Placeについて

1968年に「日本グリーンパックス」として事業をスタート。2019年5月、創業50周年を機に現社名に変更しました。「アイデアで未来をつくる、創造総合商社」を掲げ、さまざまな分野で独自性のある商品やサービスを提供しています。創業から一貫して、全国自治体のごみ減量を支援する事業を柱にしており、現在では、高所安全対策製品や再生樹脂製品の販売、天然成分由来にこだわったオリジナルの化粧品や雑貨類の企画・販売、海外家電製品の輸入販売なども行っています。海外にも拠点を設け、積極的に事業を展開中です。

2020年からは当社の株の100%を一般財団法人辻・山中財団(辻は正式には一点しんにょう)が保有する体制に移行しており、当社の得た収益の一部は配当金として財団に支払われたのち、社会に対し意義のある事業に寄付される仕組みになっています。

株式会社G-Place <https://g-place.co.jp/>

一般財団法人辻・山中財団 <https://www.tsuji-yamanaka-zaidan.jp/>

【リリースに関するお問い合わせ先】

株式会社G-Place

経営企画グループ 広報:菊地

Email:kikuchi@g-place.co.jp

【事業に関するお問い合わせ先】

株式会社G-Place

設備資材事業グループ

電話番号:03-3527-2992(中尾/内藤)

Email:ssg@g-place.co.jp

【会社概要】

商号:株式会社G-Place(読み:ジープレイス)

所在地:〒617-0835

京都府長岡京市城の里10-9

創業/設立:1968年5月7日/1969年5月16日

代表取締役社長:綾部英寿

公式HP:<https://g-place.co.jp>

掲載されている情報は発表時点のものです。発表後に内容が変更になる場合がございますので、何卒ご了承ください。